

農林水産大臣賞

天竜木材供給基地づくり

川上・川下一体でマーケティング戦略展開へ

天竜地域林材業振興協議会（会長 太田 丹）

□事業体の構成

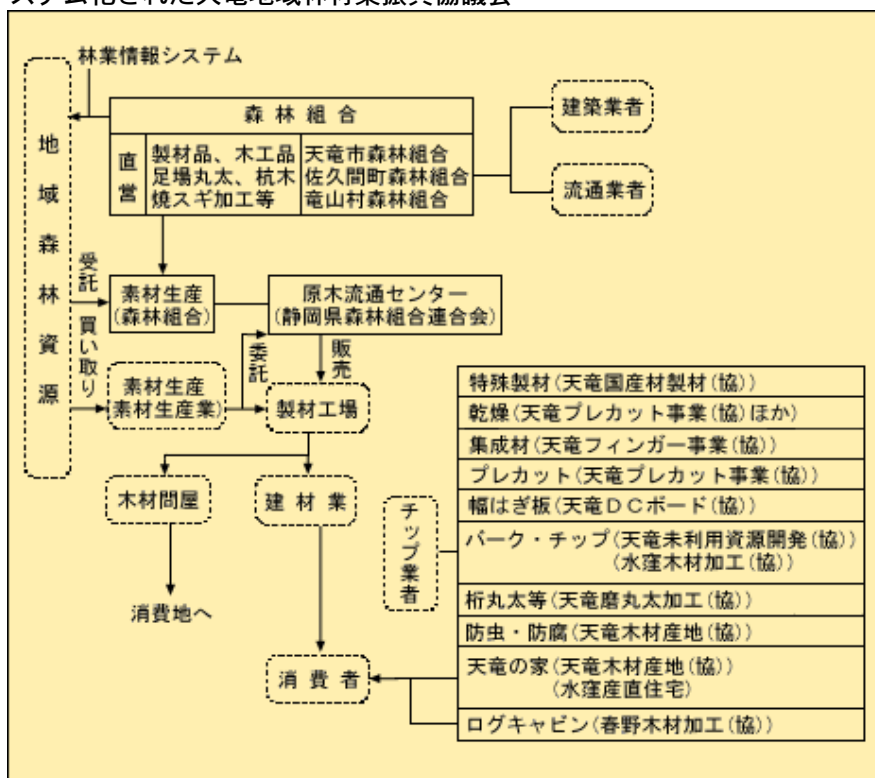
地域の森林組合、木材協同組合、育林研究会、林業構造改善事業協議会の各代表、学識経験者、県・市職員の32名。

〒431-33 静岡県天竜市二俣町二俣481 天竜市商工観光課内

TEL0539-26-1111



□システム化された天竜地域林材業振興協議会



1 明治期に大植林事業

(天竜林業地のあらまし)

天竜林業地域は、静岡県の西北端に位置し、北は長野県、西は愛知県に接し、行政的には、天竜市、佐久間町、水窪町、春野町並びに龍山村の1市3町1村にわたる天竜川流域に発達した歴史の古い林業地である。

この地域の造林は、江戸期に端を発し、特に有名なのが明治期に入り、金原明善翁による一大植林事業で、その面積は約2,000haに達した。この事業に代表され

るように、この地域の造林は、日本が近代国家の基礎を形作った明治中期から大正期にかけて、急速に進展していった。このように先駆者の献身的な努力により、地域の人工林率は、戦前、すでに50%を超していたと言われている。

この結果、「天竜美林」として、古くから広く世に知られ、林業と木材に関する産業が地域経済の根幹をなしてきた。

2 人工造林8割上回る

(地域の現況)

(1) 森林の現況

総面積9万4,500haのうち、林野面積が8万6,200haで林野率は91%を占め、地域の活性化には、林業、木材産業の振興を抜きにしては語れない地域となっている。

民有林の面積は、6万8,000haで、そのうち人工林が5万5,000haとなっている。特に、人工林率81%は県平均の60%に対し大変高く、林業先進地を形成している。天竜杉と言われているように、古くからスギを中心に植林され、スギ、ヒノキの比率は2対1で、この2つの樹種で人工林面積の98%を占めている。また、7齢級以下の人工林が58%に対し、古くからの林業地であるため、8齢級以上が42% (2万3,000ha) と県内の他の林業地に比べて多いのが、特徴的である。

(2) 森林組合

地域の5市町村には、それぞれ森林組合が設置され、指導事業等とともに林産事業を実施している。昭和63年のこの地域の素材生産量17万6,00m³のうち、5森林組合で9万4,000m³を生産し、林業の重要な担い手となっている。

(3) 生産された素材の流れ

域内で生産された素材の7割近くは、地域内（この場合、隣接する浜北市を含む。）で製品化されているが、残りは県内及び（優良材を中心に）愛知、三重、岐阜各県の市場へ流出している。

(4) 原木市場

県森林組合連合会天竜営業所の原木市場が設置され、自動丸太選別機2ラインを備え、年間5万2,500m³ (8万m³取扱可) の素材を取り扱い、本県における原木集荷の拠点となっている。

(5) 木材産業の状況

天竜林業は、首都圏への羽柄材供給基地として盛え、天竜市を中心に木材産業が集積し、製品の流通を担う産地問屋（産地製材工場の販売代行機関として自立）が発達してきた。

現在、この地域（この場合、浜北市を含む。）には、県木連加盟の木材協同組合が5組合あり、傘下の企業は243社を数えている。年間の素材の需要量は、約44万m³であるが、外材の進出はここ天竜林業地域でも例外ではなく、その割合は県全体の75%からみれば少ないものの、それでも66%となっている。

3 川上から川下まで

(天竜地域林材業振興協議会)

(1) 協議会の設立及び構成メンバー

設立年月日：昭和57年4月1日

構成：森林組合、木材協同組合等、育林研究会、林業構造改善事業協議会の代表、学識経験者及び県・市職員の32名

(2) 協議会設立の背景

この地域が豊富な森林資源を有する林業地として、また、これらの資源を利用した製材工場や流通業が、地域の主要な産業として発達してきたが、第2次石油ショック後におとずれた林業、木材産業の不況は、この地域にとっても、極めて厳しく、川上から川下までの関係者が一様に危機感を強く抱いたことにある。

(3) 協議会が目指したもの

地域に豊富にあるスギ、ヒノキを主体とする森林資源を有効に活用して、木材供給体制を整備し、「林業地・天竜」の再構築を図ることであり、これを実現させたのが「天竜木材供給基地づくり」である。

この基地づくりを具現化させるため、協議を重ね新しい時代に向けての天竜地域林材業のあり方について、協議会が一年をかけ策定したのが「天竜地域林材業振興についての基本構想」である。

4 業界調整と行政への働きかけ

(目的達成への足どり)

この協議会は、「天竜木材供給基地づくり」の推進母体として、林・材業界間の調整と行政サイドへの働きかけや計画の樹立等、構想実現のためのソフト面を担当し、実際の施設の整備等のハード面は、個々の事業実施主体により整備されたことは、言うまでもない。

目的達成への段取りを具体的に記すと

(1) 協議会の自主的運営

行政主導の組織とせず、行政機関は側面援助にまわり、協議会運営の中心は林材業界の代表が担った。

(2) 基本構想の具体性

単に机上で作ったものではなく、川上、川下の関係者の要望を取り入れ、かつ、コンセンサスを得ながら将来展望にたって樹立された計画であった。

(※地域全体を一つの計画としてまとめあげることに、多くの労力を要した。)

5 基本構想の達成

(実現に向けての行動)

(1) 林材業の連携・一体化

協議会において、林業、木材業界が一体となり、基本構想の実現に向けて行動することで意志の統一を図った。

(2) 協力態勢の確立

市町村、市町村議会、県等、関係者の応援、協力態勢を得られるよう努めた。

(3) 関係市町村及び森林組合への対応

関係市町村及び森林組合の協力を得るため、県の機関が行動した。特に、市町村の事業サイドは、県農林事務所が、中枢部へは、県振興センターが一体となって働きかけた。

(4) 用地の確保

事業の展開に必要な、広くかつ効果的な用地を確保することは、平坦地の少ないこの地域では困難をきわめた。関係方面に陳情した結果、天竜市船明地区に用地を確保することができ、この基本構想実現への大きなはずみとなった。この船明には、天竜市森林組合と天竜木材産地協同組合が同居している天竜林業会館が既に完成していた。

市有地の利用等に天竜市及び天竜市議会の理解と協力とともに河川埋め立て地の確保等については、県の振興センターが関係機関へ動きかけた。

(5) 国への対応

基本構想の中で大きな位置を占めていたのは、プレカット事業であった。そこで、協議会と県、市が慎重に調査、検討した結果事業化の方向を打ち出した。幸い、広域林業構造改善事業に採択され、急ピッチで施設が完成（昭和60年度）し、操業を開始した。これに勢いを得て、基本構想全体の実現に向けて、国等へ陳情を重ね、林業事業に新規事業として、国産材供給体制整備事業が創設されることとなり、全国に先がけてこの事業に採択されることとなった。又、国の事業費の割当て等に当り、多大な協力が得られたことは、この地域にとっても幸運であった。今、振り返って考える時、国、県の積極的な助成無くしては、基本構想が枠の範囲を出ず「天竜木材供給基地づくり」が実現できなかったことは言うまでもない。

(6) リーダーの行動

協議会の会長をはじめ、副会長、委員長などの各リーダーが、基本構想の実現には業界の自主努力の必要性を説き、協議会内部の意志統一を図ったうえで、国、県、市などへの陳情に積極的行動を示した。また、リーダー達は、自分の会社を顧みず、新事業体に専従するなど、熱心にこれの経営に当たった。

6 既存の加工・流通システムを整備

(事業の内容)

天竜木材供給基地づくりは、協議会が国、県、市町村の指導と協力のもとに取り組み、実現された事例である。

この基地づくりの特徴は、既存の加工、流通システムを活かす形で整備していた点にある。その範囲は、原木市場の整備から二次加工施設は言うに及ばず、残材の活用施設整備、林業情報システムの整備まで及んでいる。取り込んだ事業としては、山村林構、広域林構、国産材供給体制整備、林産集落振興対策等の事業のほか、低コスト木材乾燥システムモデル事業等の県単独事業や市単独事業及び自力による事業と多岐にわたっている。

前記の各種事業で整備された施設等は

(1) 原木流通拠点の整備

(県森連天竜営業所)

(2) 製材施設の整備

・特殊材：大径材、長尺材、小径木

(天竜磨国産材事業協同組合)

・小径木（龍山村森林組合）

(3) 2次加工施設の整備

・磨丸太（天竜丸太加工協同組合）

- ・プレカット、ソーラー乾燥施設外
(天竜プレカット事業協同組合)
- ・ログキャビン(春野木材加工(協))
- ・防腐加工、剥皮加工
(天竜市森林組合)
- ・木工加工(春野国産材加工(協))
- 〈4〉製品加工施設の整備
 - ・D・Cボード
(天竜デーシーボード(協))
 - ・木製品：焼杉(佐久間町森林組合)
 - ・集成材(天竜フィンガー事業(協))
- 〈5〉廃材活用施設の整備
 - ・チップ(水窪木材加工協同組合)
 - ・チップ・バーク
(天竜未利用資源開発(協))
- 〈6〉流通施設の整備
 - ・足場丸太・杭木(天竜市森林組合)
- 〈7〉林業情報システムの整備
(県森連天竜営業所、各森林組合)

7 業績あげた取扱高 (事業の実績)

代表的な施設の平成元年度実績は、次のとおりである。

県森連天竜営業所：原木取扱量5万2,500m³、販売額22億5,100万円、天竜プレカット事業(協)：469棟、賃加工外1億8,600万円、天竜国産材事業(協)：8,400m³外、製材加工賃外9,600万円、天竜フィンガー事業(協)：2,080m³外、加工賃外1億2,500万円、龍山村森林組合：製材2,255m³、杭木14万1,700本外1億4,200万円などになっており、それぞれ良好な業績を上げている。

8 地域内の加工を増大 (今後の取組み)

「天竜木材供給基地づくり」は、施設整備面で一応の体裁を整えた段階であり、これらの施設を有機的に機能させ、林業地天竜を確固たるものにするためには、

- 〈1〉生産コストの低減と原木の安定確保
- 〈2〉外材のみならず、他産地との競合の激化が予想される天竜杉(一般材)の需要拡大と地域材の域内での加工割合の増大
- 〈3〉高性能多機能な林業機械や製材用機械等の導入と担い手の確保対策
- 〈4〉生産と流通を結ぶ情報ネットワークの整備
- 〈5〉多様化する消費者のニーズを適確にとらえ、狂いのない正寸法の安定した製品の生産等、

これらの課題を解決しながら、大消費地を中心に、川上、川下が一体となって、マーケティング戦略を積極的に展開する必要がある。

課題はどれ一つを取っても、一朝一夕に解決できる生易しいものではないが、基本構想を樹立して、それを実現させた川上、川下の関係者の熱意をもって、これにあたれば近い将来には、実現できることを確信している。

(※現在でも段階的に前記の課題に取組み成果を上げつつある。)